

令和3年度 第2回 学校運営協議会 議事録

日時：令和3年11月26日（金）15：30～17：00

場所：校長室

出席者：友谷委員、西田委員、速水委員、西川委員、川上委員、笹井委員

佐々木校長、坂口教頭、轟事務長、村上首席、永野首席、住友指導教諭

- 1 会長挨拶、校長挨拶
- 2 配布資料確認（坂口教頭）
- 3 令和3年度学校経営計画について（佐々木校長より進捗状況の説明）
 - ・ 「生徒をいかに伸ばすか」を中心に据えた学校経営を心がけている。「一人ひとりの生徒が、抱いた疑問を主体的に解決する姿勢」を育てたい。
 - ・ 学校見学会で「山田高校の良いところは生徒です」と話している。例えば生徒会執行部の「校則を現代に見合ったものに変えたい」というマニフェスト実現に向けた主体的な取り組みを支援したい。
 - ・ 現在、新学習指導要領の観点別学習状況評価の基準を含んだシラバスを作成中。
 - ・ BT アンケートにおける「平日ほとんど学習しない」と答える生徒の割合を削減すべく、まだ途中段階であるが課題を課すなど様々な取り組みをしている。
 - ・ SDGsをテーマとした総合的な探究の取り組みは少しずつ成果を上げている。
 - ・ インターネットを利用した学習ツールの使用は1人1台端末導入の効果もあり、進んでいる。
 - ・ 授業アンケートにおける「思考力・表現力が身についた」の平均肯定割合も84%という結果を得ており、学校教育自己診断は第1回目でグループ学習などの学習形態の工夫や改善が少しずつ進んでいるという手応えがあった。
 - ・ 研究授業や公開授業を年間10回以上実施するという指標については10年目研修の研究授業や授業見学Dayを設定するなどして取り組んでいる。
 - ・ 進路指導については、進路指導部が中心となり補習や講習を実施し、学力生活実態調査や実力考査を実施。キャリア教育については教育実習生の話聞く場を設けた。
 - ・ 姉妹校である **Bentleigh secondary college** との交流はコロナの影響を受けて、希望者によるメールのやりとりにとどめている。
 - ・ 部活動の加入率については目標の90%には届かないものの昨年の83.8%から85.4%に少し上昇した。1年生は体験入部の期間が先送りされるなど入部のタイミングを逸したことなども影響し男子は75.9%にとどまっているが、女子は94.1%である。
 - ・ 修学旅行については規模を縮小し11月29日から2泊3日で愛媛～神戸方面で実施。
 - ・ 体育祭については「レッツダンス」のみを7月14日の午後に実施した。競技については2学期にHRなどを活用して「ミニ運動会」を実施するなどの工夫をした。
 - ・ 文化祭も規模を縮小し、様々な制限の中で1・2年と3年有志が舞台中心に取り組み、3年は文化祭当日に校外学習を実施した。
 - ・ 遅刻指導については1年生全体で10月まで通院など理由のあるものを含んで56

人ときわめて少なく、各学年とも減少している。

- ・ コロナ禍の影響もあり、保護者・地域の方と連携した登校指導は実施できていない。
- ・ 校内美化については事務の協力もあり 1、2 階の廊下の壁を塗装修理するなどして明るい校舎になった。
- ・ プロジェクタを使用した授業が多いため、生徒会がまとめた生徒の要望を受け、各教室の一番前に遮光カーテンを設置。
- ・ 人権研修会については 11 月 10 日に校長が 1 年生に向けて同和問題の講話を実施した。アンケートから生徒にいろいろな気づきが見て取れた。
- ・ トイレや各教室の出入り口にアルコールディスペンサーを設置するなどの環境整備に加え、保健部による昼休みの放送や SHR での担任からの注意により感染予防の啓発に継続して取り組んだ。
- ・ 校外学習はコロナ禍の影響もあり、当初の計画を修正・変更しながら実施した。
- ・ ノークラブデーは計画どおりに実施できている。
- ・ 超過勤務月間 80 時間以上の教職員は 10 月までに延べ 14 名。声かけや産業医との面接指導などを実施している。
- ・ 小中学生対象の「科学入門講座」「スポーツ芸術講座」もコロナ禍の影響で中止。
- ・ 学校説明会については形式を適宜修正しながら実施している。これまでに 5 回の実施で参加者は延べ 2000 人超え。
- ・ コロナ禍で制限がある中で部活動も健闘している。バドミントン部も先日の公立校大会で男女とも優勝しており、こうした実績も中学生の人気に繋がっている
- ・ 10 月 28 日と 11 月 18 日に家庭発展特別授業を実施し、ホームページでタイムリーに情報発信している。

補足（坂口教頭より）

令和元年度から今年度までの欠席・遅刻・出席停止の月ごとの各学年の合計数を資料として提示した。

- ・ 欠席について 3 年生の後半に多いのは受験前の不安などが要因の 1 つでもある。例年 11 月・12 月の推薦入試や 1 月の一般入試なども数が増える要因の 1 つだ。
- ・ 出席停止について今年度はコロナ罹患に加え濃厚接触者に特定されるなどの理由やコロナ感染に対する精神的な不安なども含まれている。

補足（住友指導教諭より）

- ・ 授業充実 PT として 10 年目研修該当者の校内研究授業を実施。今年度は 1 つの学年の午後の授業をカットして、授業見学 Day として、残りの 2 つの学年の教員が授業を見学しやすいように工夫した結果、教員の授業相互見学が盛んに行われた。
- ・ BT の小テストではクロームブックを活用し、ペーパーレスで実施している。（2 年・3 年の英語）
- ・ スタディサポートは担当者からの資料を受領し、担任会で分析・結果を共有。
- ・ 8 月 25 日の職員研修ベネッセ担当者に大学入試状況の講演を依頼。43 名が出席。
- ・ 図書館利用者数も貸出冊数も総数としては少ないが、生徒数の減少を考慮に入れると貸出冊数の割合はむしろ増えている。（特に 1 年生の利用が多い）
- ・ 今年度初めて大阪府中高生ビブリオバトル（高校生大会）に 2 年生女子が参加。

参加者の貴重な体験談を図書だより 12月号で報告。

- ・ 今後、可能ならば生徒を引率した校外図書選定購入や保護者の図書館見学も検討。

補足（永野首席より）

- ・ モデル校として他校に先駆けて1人1台端末の活用を実践している。
- ・ 全生徒1人1台端末導入を受けてこれから先、さらにどのような活用ができるのかを模索している。
- ・ グーグルアプリに詳しい会社の方を講師として招き教員向けの研修会も行っている。
- ・ 理科や総合的な探究の時間でプレゼン資料やスライド作成などにも取り組んでいる。
- ・ 各教科の課題連絡やクロームブックでのレポート提出などにも活用されている。
- ・ 一部の教員が試行的に実施している段階で、まだ学校全体での共有には至っていない。実践を全体で共有していきたい。

補足（坂口教頭より）

- ・ 1人1台端末活用のモデル校としての本校の取り組みが府立学校メールマガジンで紹介された。
- ・ 生徒会役員選挙の投票・集計はクロームブックの活用により迅速かつ効率的に実施できた。生徒総会、BT（ベーシックタイム）にも活用している。
- ・ 保護者に対しては、欠席連絡のフォーム、PTAの連絡や出欠確認、学校自己診断アンケートなどにも活用している。

補足（進路指導状況 坂口教頭より）

- ・ 4月の時点で3年生の就職希望は0名だったが、進路変更で1名希望者がいる。
- ・ 指定校推薦内定者は49名。大学入試共通テストの受験者は180名の予定。
- ・ 保護者対象の進路説明会は視聴覚教室での実施に加えて、ライブ配信も行った。100名以上が視聴していた。
- ・ 6月11日、11月4日に受験希望者の多い6大学の説明会を実施した。
- ・ 外部模試の案内も行い、自らの実力を測るよう促している。
- ・ 今後も、1年生と2年生の進路ガイダンスと模擬授業体験を3学期に予定している。
- ・ 1月15日には1年生と2年生に全員受験の学力テストを予定している。

（質疑応答）

委員：概ねうまく進んでいるように思われるが、人権尊重に関して、ジェンダーマイノリティへの取り組みはどのようなものか？

事務局：HRでも取り扱っている。一昨年には講演会も実施した。すべての人権問題を取り上げるように計画している。1年生は入学当初にネットの問題について学ぶ場を設けている。ジェンダー問題についても毎年取り組んでいきたい。

委員：入試については男女別にはなっているのか。

事務局：志願書受付から受験まで男女は区別していない。入学者の男女比はおよそ男子

45%、女子 55%となっている。

事務局 : ジェンダー問題は SDGs 中にもあり、総合的な探究の時間でも取り扱っている。

委員 : 大学でも、この問題について委員会などの組織を立ち上げることも検討している。

事務局 : 高校では「人権教育推進委員会」が人権問題の全てを担当している。

事務局 : (本校の出席状況の資料と比較して) コロナ禍での小中学校での欠席状況はどのような状態か。

委員 : 中学校ではコロナ不安による欠席は殆どない。9月の分散登校時に不安を抱いている保護者もいたが、殆どの生徒が休まない。オンライン授業は一部オンライン授業の希望のあった生徒向けに「対面授業+LIVE 配信」の形を取った。

事務局 : 本校でもコロナ不安、健康観察により登校できない生徒には、「対面授業+LIVE 配信」の形を取った。

事務局 : コロナ禍が少し落ち着いている現在もその形態を継続中。出席停止扱いとすべき生徒の数は減っている。

委員 : 出席停止については本人・保護者の申し出を認めるのか。

事務局 : コロナ不安により登校できない生徒の学習保障は行うようにという教育庁の指示どおりに実施している。

委員 : 最近も登校しない生徒は多いか。不登校は増えているのか。

事務局 : 3年生で入試前の調整で休む生徒は欠席となる。不登校の原因としては、コミュニケーション力に課題のある者が増えてきている。スマホ中心の生活も影響しているのか。

委員 : 小学校でも不登校は増えている。家庭の事情やその子の性格によるものが多い。起立性調節障害と診断されている例が低学年に増えている。不登校傾向の生徒も登校すれば、普通に過ごしている。朝起きたときに家を出にくい状況があるようだ。

事務局 : 小学校での不登校は中学校では改善されるのか。

委員 : なかなか改善されない。オンライン授業があれば家でも学習できるので、登校して対面授業でのコミュニケーションも生徒にとって大切であるのに、登校しなくても済むと考える生徒が出てくるのではないかと心配だ。

事務局 : 高校では通信制が多くなり、本校から転学する者の殆どが通信制へ転学する。2・3年生で約 10 名が転学している。3年生になってからでも転学する者がいる。

委員 : 高校間で転学者数の割合を比較することはあるのか。

事務局 : ない。教育庁のみが把握している。本校が特に多いというわけではないが、ここ数年増えてきていることは確かだ。

委員 : 息子が通う大学では入学後 1 年半オンラインでの授業しか行われず、サークルに入ろうにも、活動期間が短いので躊躇っていると聞くと寂しい気持ちになる。高校の部活動もどうなっているのか心配していたが、1 年生の加入率を聞いて安心した。デジタルの時代にも紙文化を大切にしたいという思いだが、図書館が活用されていることはうれしく思う。企業内に、昨年ハラスメント相談窓口を男女 1 人ずつ設けている。学校でも生徒の相談窓口を設けている場合もあると聞く。

事務局 : 高校では人権教育推進委員会が中心に対応している。大阪府教育センターにも

相談窓口がある。この先生なら話せるという人を設けたい。教員間のハラスメントは管理職が窓口になる。

事務局：毎年生徒にアンケートも行い、事例をひろいあげている。授業アンケートの中で事例が見つかることもある。

4 学校教育自己診断について（坂口教頭より）

生徒・教職員は Google フォームを利用して実施する。保護者はフォームとマークシート方式を併用。昨年度保護者アンケートの回収率は 75%。さらに回収率を上げたい。質問事項はコロナ禍で実施できなかった項目は削除し、1人1台端末導入で ICT 活用についての質問、感染症対策についての質問などを追加した。

5 令和4年度使用教科書選定について報告（坂口教頭より説明）

保護者、府民の立場で理解できるものか、学校の実情に合っているか、積極的な姿勢で選定しているか等々の観点で選定を実施した。

6 保護者からの意見書

提出なし

7 連絡事項

- ・議事録は確認いただいた上でホームページに掲載。
- ・第3回は2月上旬に実施を予定。

8 校長謝辞

前回と今回の内容を反映して、1月末に次年度の経営計画を策定する。